

## 2021 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	認定特定非営利活動法人 障害者放送通信機構
活動テーマ	「稲むらの火」から学ぶ防災～聴覚障害者の防災意識向上をめざす～



障害者放送通信機構は、阪神淡路大震災で聴覚障害者が情報から疎外された苦い経験を機に、1998 年設立され現在まで手話と字幕の番組「目で聴くテレビ」でテレビ番組の情報保障や情報発信を行っています。2021 年は、津波による死者 18,131 人、行方不明者 2,829 人、負傷者 6,194 人という甚大な人的被害が生じた東日本大震災から 10 年を迎えました。この痛苦の経験を風化させないためにも、聴覚障害者が防災について学び防災意識を高めること、行政の防災担当課にも聴覚障害者に対する理解を深めていただくことを目的としました。

実施方法として、「稲むらの火の館」取材し、ろう者俳優による物語「稲むらの火」の手話動画の制作を行いました。完成した映像を「目で聴くテレビ」で全国放送を行い、その後、映像を DVD 化、全国の聴覚障害者支援学校、ろう学校や聴覚障害者関係団体及び都道府県防災担当課、政令指定都市防災担当課へ配布しました。放送は、国連で採択された「世界津波の日」である 11 月 5 日に最も近い放送日の 11 月 2 日に行いました。

放送後、「世界津波の日というものを初めて知った。日頃から防災への意識を高めていきたい」「物語『稲むらの火』の手話劇がとても分かりやすかった」「現在はコロナで集まれないが、コロナが収束したら DVD を活用して防災学習会をしようと思う」などの声が寄せられました。

本事業を通じて、聴覚障害者の防災意識の向上が図られ、聴覚障害者のための防災関連事業継続の必要性を感じました。

〈写真〉

(左上) 聴覚障害者関係団体、行政、ろう学校等へ配布した DVD (右上) 映像オープニング

(左下) 手話キャスターによる「稲むらの火」の館取材 (右下) ろう者俳優による物語「稲むらの火」の手話動画